



高知県初記録のカマヒレマツゲハゼ

岡村恭平¹・津野義大¹・富山陽聖²・遠藤広光¹

Author & Article Info

¹ 高知大学理工学部海洋生物学研究室（高知市）
 KO: b22m6g30@s.kochi-u.ac.jp (corresponding author)
 YT: b213s028@s.kochi-u.ac.jp
 HE: endoh@kochi-u.ac.jp
² 高知大学農林海洋科学部沿岸環境学研究室（南国市）
 b194r032@s.kochi-u.ac.jp

Received 24 November 2022
 Revised 02 December 2022
 Accepted 02 December 2022
 Published 03 December 2022
 DOI 10.34583/ichthy.27.0_7

Kyohei Okamura, Yoshihiro Tsuno, Haruaki Tomiyama and Hiromitsu Endo. 2022. First records of *Oxyurichthys cornutus* from Kochi Prefecture, Japan. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 27: 7–10.

Abstract

Two specimens of an estuarine goby, *Oxyurichthys cornutus* McCulloch and Waite, 1918 (Gobiiformes: Gobiidae) were collected from the Matsuda River, Sukumo City, Kochi Prefecture, Japan. In Japanese waters, *O. cornutus* was previously known from Chiba, Kanagawa, Shizuoka, Wakayama, Tokushima and Oita prefectures, Kagoshima mainland, and the Osumi and Ryukyu Islands. Thus, the present specimens represent the first records of the species from Kochi Prefecture. They were characterized by having a tentacle on the eye, an elongated first dorsal-fin spine, a dark spot on each body scale on the dorsum and dark spot rows on the second dorsal and pectoral fins.

ハゼ科オクスデルクス亜科のサルハゼ属魚類 *Oxyurichthys* Bleeker, 1857 は、第3神経棘の幅が広く、その先端は二分する、頭部感覚管の開孔が A', B, C, D(S), F, H' からなる、上顎歯が1列であること [Pezold and Larson (2015) によってノボリハゼ属 *Oligolepis* から移された *Oxyurichthys keinsis* (Smith, 1938) を除く] などを特徴とする (Pezold and Larson, 2015; 渋川ほか, 2017)。本属魚類はインド・太平洋および西部大西洋から少なくとも21有効種が知られ、本邦からは学名未決定種を含む14種の報告がある (Pezold and Larson, 2015; 渋川ほか, 2017; 瀬能ほか, 2021; Zarei et al. 2022)。そのうち高知県では、アラガサルハゼ *Oxyurichthys auchenolepis* Bleeker, 1876, ミ

ナミサルハゼ *Oxyurichthys lonchotus* (Jenkins, 1903), タテガミハゼ *Oxyurichthys microlepis* (Bleeker, 1849), ナガセハゼ *Oxyurichthys notonema* (Weber, 1909), マツゲハゼ *Oxyurichthys ophthalmonema* Bleeker, 1856, オニサルハゼ *Oxyurichthys papuensis* (Valenciennes in Cuvier and Valenciennes, 1837), サルハゼ *Oxyurichthys saru* Tomiyama, 1936, サルハゼ属の1種B *Oxyurichthys* sp. 4の8種の記録がある (Tomiyama, 1936; Kamohara, 1951, 1957; 野川ほか, 2003; 三宅ほか, 2006; トンボと自然を考える会, 2010; 大塚ほか, 2010; 明仁ほか, 2013; Pezold and Larson, 2015; 四万十川財団, 2017; 渋川ほか, 2017; 永江ほか, 2022)。

2022年10月と11月に高知県宿毛市松田川から、カマヒレマツゲハゼ *Oxyurichthys cornutus* McCulloch and Waite, 1918 に同定される2個体が採集された。国内でこれまでに本種の記録があるのは、千葉県、神奈川県、静岡県、和歌山県、徳島県、大分県、鹿児島県本土、大隅諸島および琉球列島であり (立川・宮島, 2012; 明仁ほか, 2013; 吉郷, 2014; 国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所, 2017; 村瀬ほか, 2019; 古橋ほか, 2019; 山川ほか, 2020)、松田川から得られた標本は高知県初記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

標本の計数・計測方法は渋川ほか (2017) に、頭部感覚器官の名称は明仁親王 (1984) と渋川ほか (2017) にしたがった。標準体長は体長または SL と表記した。計測はデジタルノギスを用いて 0.01 mm 単位まで行い、小数第2位を四捨五入した。標本の作成、登録、撮影、および固定方法は、本村 (2009) に準拠した。本報に用いた標本は、高知大学理工学部海洋生物学研究室 (BSKU) に保管されている。

***Oxyurichthys cornutus* McCulloch and Waite, 1918**

カマヒレマツゲハゼ

(Fig. 1; Table 1)



Fig. 1. Fresh specimens of *Oxyurichthys cornutus* (A: BSKU 132605, 34.2 mm SL; B: BSKU 132706, 34.1 mm SL) from Kochi Prefecture, Japan.

標本 2個体：BSKU 132605，体長 34.2 mm，高知県宿毛市松田川河口域，水深 0.8 m，2022 年 10 月 12 日，タモ網，採集者 岡村恭平；BSKU 132706，体長 34.1 mm，採集地と水深は前標本と同様，2022 年 11 月 5 日，タモ網，採集者 岡村恭平・富山陽聖。

記載 計数形質と体各部の体長および頭長に対する割合を Table 1 に示した。体は細長く，側扁する。側面から見た吻の前縁はやや丸い。鼻孔は 2 対で眼窩前方に位置する。前鼻孔は管状でその先端に開き，前管上唇に接近とわずかに重なる。後鼻孔は涙形で，眼窩前縁のやや前方に位置する。口裂は斜位でやや大きく，上顎後端は眼の中央下付近に達する。上顎と下顎はほぼ等位。主鰓蓋骨の後縁は円滑で緩やかな弧を描く。眼は頭部背縁にあり，その下端は吻端とほぼ同じ高さに位置する。眼上に短い糸状の皮弁をもつ。体部の前半は円鱗に，第 2 背鰭起部直下よりやや後方部からは櫛鱗にそれぞれ被われる。両背鰭は鰭膜でわずかにつながる。第 1 背鰭起部は腹鰭基部後端の直上より

後方に位置する。第 2 背鰭起部は臀鰭起部の直上よりわずか前方に，第 2 背鰭基底後端は臀鰭基底後端上よりわずか前方に位置する。第 1 背鰭棘条の先端はすべて糸状に伸長し，第 1 棘条が最長。胸鰭は長く，その後端は第 2 背鰭の第 2–3 軟条直下に達する。胸鰭基底上端はその下端より後方に位置する。腹鰭起部は主鰓蓋骨後縁の直下よりやや前方に位置し，たまた腹鰭後端は肛門付近に達する。尾鰭は尖形で，後端は伸長する。頭部には前眼肩甲管に開孔 A'，B，C，D(S)，F，H' がある。

色彩 生鮮時の色彩 (Fig. 1) 一頭部と体の背部は灰褐色。腹部は灰白色で，下顎から峡部にかけての腹面は黄色味を帯びる。体側背部に赤褐色の小斑が散在し，体側背部各鱗の多くは後縁に 1 黒色点を有する。胸鰭基部後方から尾鰭基部にかけての体軸上に楕円形の不明瞭な黒褐色斑が 5 個並び，これらの間にも同様の小斑が不規則に存在する。体軸上の斑紋からは臀鰭基部へと不明瞭な灰色の横帯が伸びる。虹彩は金色で，瞳孔は藍色。頬部に不明瞭な斜帯が

2本あり、1本目は細く薄い灰色で眼前縁部から上顎前端的のやや後方へ走り、2本目は太い黒褐色で眼後縁部から上顎後端のやや前方へ走る。第1背鰭は下部が黄褐色、上部が乳白色で、上部には赤褐色の縦帯が5本走り（上端部では不明瞭）、後端に1黒褐色斑がある。第2背鰭の鰭膜は黄緑色で、多数の小黒色斑が斜めに並び、上端部は橙色で縁取られる。胸鰭の鰭膜は乳白色で、胸鰭下部は黄色味を帯び黒褐色の点列がある。胸鰭基部上部には黒色斑がある。腹鰭の鰭膜は赤褐色、鰭条は黄土色。腹鰭を除く各鰭の鰭条は乳白色。臀鰭の鰭膜は黄褐色で、上部に赤褐色、下部に黒褐色の不明瞭な縦帯が走る。腹鰭と臀鰭の下端部は白色で縁取られる。尾鰭の鰭膜は上部が黄緑色で多数の小黒色斑が斜めに並び、下部は乳白色。尾鰭上部の縁辺と中央部は橙色、下部の縁辺は白色を呈する。

分布 日本、台湾、グアム、マレー諸島、オーストラリア北岸・東岸、フィジー諸島、サモア諸島などの西太平洋各地から報告がある（周・高, 2011; 明仁ほか, 2013; Pezold and Larson, 2015）。国内では、千葉県、神奈川県、静岡県、和歌山県、徳島県、高知県、大分県、鹿児島県本土（薩摩半島南岸）、大隅諸島（種子島・屋久島）、奄美群

島（奄美大島）、沖縄諸島（沖縄島・久米島）、宮古列島（宮古島・伊良部島）、八重山列島（石垣島・西表島）から記録がある（野元ほか, 2005; 平嶋ほか, 2010; 立川・宮島, 2012; 明仁ほか, 2013; 吉郷, 2014; 国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所, 2017; Nakae et al., 2018; 古橋ほか, 2019; 山川ほか, 2020; 本研究）。

生息環境 本研究における記載標本の採集地は、高知県宿毛市松田川の松田川橋直上左岸の湾入部に形成された干潟である。本標本はその奥部の窪みに堆積した軟泥中から得られた。同所にはウロハゼ *Glossogobius olivaceus* (Temminck and Schlegel, 1845), ヒナハゼ *Redigobius bikolanus* (Herre, 1927) およびノボリハゼ *Oligolepis acutipennis* (Valenciennes, 1837) が多産し、それらに混じってマツゲハゼとクチサケハゼ *Oligolepis stomias* (Smith, 1941) も少数採集された。また、第1著者が2018年9月11日に同地点で行った調査では、コガネチワラスポ *Taenioides gracilis* (Valenciennes, 1837) とヒトミハゼ *Psammogobius biocellatus* (Valenciennes, 1837) も確認されている。

備考 記載標本は、眼上に短い糸状の皮弁がある、第

Table 1. Counts and measurements of *Oxyurichthys cornutus*.

	BSKU 132605	BSKU 132706
Standard length (SL; mm)	34.2	34.1
Counts		
Dorsal-fin rays	VI–I, 12	VI–I, 12
Anal-fin rays	I, 13	I, 13
Pectoral-fin rays	22	21
Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
Segmented caudal-fin rays (upper + lower)	9 + 8	9 + 8
Branched caudal-fin rays (upper + lower)	8 + 7	7 + 7
Lateral scales	51	50
Transverse scales ¹	16	18
Transverse scales ²	17	16
Transverse scales ³	16	17
Measurements (% of SL)		
Head length	26.8	29.5
Body depth	17.6	18.4
Body width	13.3	15.2
Pre-dorsal-fin length	33.5	34.9
Pre-pelvic-fin length	26.1	29.1
Pre-anal-fin length	50.7	51.8
Caudal-peduncle length	10.2	10.8
Caudal-peduncle depth	10.5	9.7
Pectoral-fin length	28.4	29.6
Pelvic-fin length	24.8	21.6
Caudal-fin length	51.1	47.4
Measurements (% of HL)		
Head width	56.3	61.2
Head depth	60.5	67.5
Snout length	33.3	33.7
Orbit length	29.3	26.0
Interorbital width	6.4	8.0
Jaw length	45.9	44.9

¹from anal-fin origin upward and forward to first dorsal-fin base; ²from anal-fin origin upward and backward to second dorsal-fin base; ³from second dorsal-fin origin downward and backward to anal-fin base.

1 背鰭の第 1 棘が糸状に著しく伸長する，体側背部各鱗の多くに 1 黒色点がある，および背鰭や胸鰭に顕著な暗色点列があることなどが，Pezold and Larson (2015) と渋川ほか (2017) が示したカマヒレマツゲハゼ *Oxyurichthys cornutus* の標徴とよく一致した。本種の分布は前述のとおりであり，日本本土の太平洋沿岸がその北限にあたるが，高知県の魚類相を調査した既往の研究や目録に本種の記載はない (三宅ほか，2006；四万十川財団，2017)。したがって，本標本が本種の高知県初記録となる。第 1 著者らは 2017 年以降，高知県の汽水域における魚類相調査を継続的に行っており，2018 年 8 月 26 日にも本報と同一地点でカマヒレマツゲハゼ 1 個体を採集したが，他の地点での生息は確認できていない。また，冬季の採集例もないため，現時点では本種の同県における定着を示す根拠はない。しかし，同県より北方に位置する和歌山県では，本種の一部個体が越冬に成功した可能性が示唆されている (野元ほか，2005；平嶋ほか，2010)。さらに，本種に近縁で同様の環境を好む南方種のマツゲハゼは，松田川に加えて浦戸湾や蛸瀬川からも得られている (Kamohara, 1957; 三宅ほか，2006; 岡村，未発表)。それらの事実を勘案すれば，今後も継続した調査を行うことで，高知県内から本種の新たな産地や越冬例が報告される可能性が高い。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり，株式会社相愛の高橋弘明氏には，高知県におけるサルハゼ属魚類の分布に関する情報をご教示いただいた。山口 蓮氏，深瀬雄大氏，松永 翼氏をはじめとする高知大学理工学部海洋生物学研究室の方々には，採集調査や標本作製および写真撮影にご協力いただいた。Ichthy 編集委員の井藤大樹氏と匿名の査読者には，原稿に対し適切なご指摘をいただいた。以上の方々には厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 明仁・坂本勝一・池田祐二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁親王. 1984. ハゼ亜目, pp. 228–229. 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (編) 日本産魚類大図鑑. 東海大学出版会, 東京.
- 古橋龍星・是枝伶旺・赤池貴大・本村浩之. 2019. 鹿児島県薩摩半島南岸から得られたミナミサルハゼとカマヒレマツゲハゼの記録 (ハゼ科: サルハゼ属) および両種の生息環境に関する新知見. *Nature of Kagoshima*, 46: 81–87. [URL](#)
- 平嶋健太郎・揖善継・平井厚志. 2010. 2005 年以降，紀伊半島で採集された興味ある海産魚類. *和歌山県立自然博物館館報*, 28: 61–67.
- Kamohara, T. 1951. Notes on some rare fishes from Prov. Tosa, Japan. Report of Kochi University, Natural Science, (1): 1–8, pls. 1–2. [URL](#)
- Kamohara, T. 1957. Notes on twenty additions to the marine fish fauna of Prov. Tosa, Japan, including one new genus (family Peristediidae). Research Reports of Kochi University, 6: 1–6. [URL](#)
- 国土交通省四国地方整備局 那賀川河川事務所. 2017. 第 5 回那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会資料. [URL](#)
- 三宅崇智・佐竹直人・黒木広大・町田吉彦. 2006. 高知市浦戸湾南部に生息するハゼ科魚類. *四国自然史科学研究*, 3: 38–49. [URL](#)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 村瀬敦宜・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏. 2019. 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 207 pp.
- 永江菜奈・幸大二郎・遠藤広光. 2022. 土佐湾で得られた高知県初記録のアラガサルハゼとサルハゼ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 24: 19–23. [URL](#)
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo* (52): 205–361. [URL](#)
- 野川悠一郎・遠藤広光・町田吉彦. 2003. 土佐湾初記録のハゼ科魚類. *Bulletin of Marine Sciences and Fisheries, Kochi University*, 22: 37–51. [URL](#)
- 野元彰人・岸野 底・木邑聡美. 2005. 和歌山県串本町で採集されたサルハゼ属 (ハゼ科) の 2 種. *南紀生物*, 47: 26–28.
- 大塚高雄・野村彩恵・杉村光俊. 2010. 四万十川の魚図鑑 (補足・カラー版正誤表). いかだ社, 東京. 163 pp.
- Pezold, F. and H. K. Larson. 2015. A revision of the fish genus *Oxyurichthys* (Gobioidae: Gobiidae). with descriptions of four new species. *Zootaxa*, 3988: 1–95. [URL](#)
- 瀬能 宏・鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾. 2021. 新版 日本のハゼ. 新訂・増補版. 平凡社, 東京. 588 pp.
- 周 銘泰・高 瑞卿. 2011. 台湾淡水及河口魚圖鑑. 晨星出版, 台中. 381 pp.
- 渋川浩一・武藤文人・鈴木寿之・藍澤正宏. 2017. 浜名湖から得られたハゼ科サルハゼ属の 1 未記載種と日本産同属魚類の分類の現状. *東海自然誌*, 10: 45–57. [URL](#)
- 四万十川財団. 2017. 四万十川の魚類 一覧. [URL](#) (6 Nov. 2022)
- 立川淳也・宮島尚貴. 2012. 第 9 章魚類, pp. 1–59. 佐伯市環境対策課 (編) 第一次佐伯市自然環境調査報告書. 佐伯市環境対策課, 大分. [URL](#)
- Tomiya, I. 1936. Gobiidae of Japan. *Japanese Journal of Zoology*, 7: 37–112.
- トンボと自然を考える会. 2010. トンボと自然を考える会が発見した四万十川の新記録魚. 四万十川トンボ記念公園 調査活動. [URL](#) (6 Nov. 2022)
- 山川宇宙・三井翔太・小田泰一朗・森田 優・碧木健人・丸山智朗・田中翔大・斉藤洪成・津田吉晃・瀬能 宏. 2020. 相模湾およびその周辺地域で記録された分布が北上傾向にある魚類 7 種. *神奈川自然誌資料*, 41: 71–82. [URL](#)
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産淡水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuan*, 9: 1–153. [URL](#)
- Zarei, F., S. M. Al Jufaili and H. R. Esmacili. 2022. *Oxyurichthys omanensis* sp. nov., a new Eyebrow Goby (Teleostei: Gobiidae) from Oman. *Zootaxa*, 5182: 361–376.